

1  
62x

刑法論綱

林董譯

四

1  
65x

刑法論綱卷之四目次

○ 刑罰ノ部

第一

施ス可カラサル刑罰

第一葉

○ 不當ノ罰 無効ノ罰 過剰ノ罰 費大ノ罰 刑罰ヨリ生スル

害(五條)

第二

罪犯ト刑罰ノ比較

第六葉

○ 罪犯ト刑罰トヲ比較スル規則(五條)

第三

刑罰ヲ免カル、ヲ得可キ年限 第五葉

第四

過誤ノ罰若クハ不當ノ罰

第五葉

○ 刑罰ノ當ヲ得サルヨリ生スヘキ錯誤(四條) ○ 立法家ノ注意スヘ

第五

素行ヲ修ムル為メニ保證人ヲ設ク

ル

第三葉

○保證人ヲ設クル法ヲ施行スヘキ者(類例四則)

第六

罰ヲ簡ム可キ

第三葉

○刑罰ノ宜ク有ツ可キ性質ヲ論ス、(七條)刑罰ヲ用ユルニ時トシテハ(三條)要スル者(三條)以上

刑法論綱卷之四

第三編

刑罰ノ部

第一章

施ス可カラサル刑罰

刑罰ヲ施行ス可カラサルノ際會四アリ第一不當ノ罰、第二無効ノ罰、第三過剩ノ罰、第四費大ノ罰、以上四個ノ事情アル者ハ施行ス可カラサルノ

林董譯

刑罰トス

第一不當ノ罰トハ其罪犯ハ真ノ罪犯ニ非ス其  
 表情ニ於テ第一等ノ害及ヒ第二等ノ害共ニ之  
 レアルニ非ス其所行ヨリ生スル所ノ損害利益  
 フ較量シ来レハ却テ利ノ害ヨリ多キモノヲ罰  
 スルヲ云ナリ例ヘハ天下ヲ治メ若クハ家ヲ齊  
 フルカ為メニ威權ヲ行フ者大害ヲ防キ若クハ  
 自衛ノ為メニ行フ所ノ作業等ヲ罰スル是也  
 何ヲカ真ノ罪犯トナスヤト云フヲ明カニ領會  
 シ得レハ則チ真ノ罪犯ト想像ノ罪犯トヲ區別

スルヲ太夕難カラサル可シ想像ノ罪犯トハ其  
 所行ノ實質ニハ罪犯トス可キ所以ナク唯偏執  
 嫌疑政府ノ過誤アセチキ道世ノ主義立法論綱ヨリシテ  
 罪犯ト看做ス者ヲ云フ例ヘハ或國ニ於テハ人  
 身ノ滋養トナル可キ食物ヲ不淨トシ有毒質ト  
 唱ヘテ之ヲ噉食スルヲ禁スルカ如シ異端ノ  
 教ヲ禁シ幻術ヲ行フヲ罪犯ト為スモ亦此種類  
 ニ屬ス

第二無効ノ罰トハ刑辟ニ處スルト雖モ罰セラ  
 レタル人ノ心頭ニ影響ヲ生セス從テ同種ノ罪

犯ヲ再ヒスルヲ防遏スルニ足ラサル者ヲ云  
フナリ  
法律ヲ辨スル能ハサル人、過誤ニ出タル所行、誤  
解ニ生セシ所行、脅迫ニ係ル所行、此等ヲ罰スル  
氏刑罰ハ其効ヲ為サス、幼穉、痴呆、痺痿、等ハ或ハ  
賞ヲ與マ、或ハ驚嚇シテ多少其不良ノ所行ヲ控  
制シ得可シト雖、氏將來ヲ達觀スルノ才能極メ  
テ乏ナルカ故ニ刑罰ヲ以テ其所行ヲ矯正ス  
ルヲ能ハス法律モ此輩ニ對シテハ全ク効用ア  
ルヲ無シ

若シ人カ嚴刑ヲ恐ル、ニモ猶ホ勝リタル怖畏  
心ヨリ出タル所行、或ハ其得ル所ノ利益ハ峻法  
ノ罰責ヲ受クル害ニ比スレハ更ニ大ナル者ア  
ルヲ以テ事ヲ行フカ如キモノアランニ法律ハ  
之ニ對シテ効能無キト明カナリ決闘ヲ禁遏ス  
ル所ノ法律ニ遵循セサル者アルトハ吾人ノ共  
ニ知ル所ナリ何トナレハ即チ名譽ヲ貴フ人ハ  
耻辱ヲ恐レテ之ヲ視ルヲ嚴刑重罰ニ過クルト  
遠キヲ以テナリ宗教ヲ制禁スル為メノ刑罰ハ  
概ネ其効ヲ見ル能ハサル者ナリ其然ル所以ハ

未来永劫ノ福樂ヲ享受セント欲スルノ熱信ハ  
復カニ身命ヲ愛惜スルノ情ヨリ大ナルヲ以テ  
ナリ

名譽ヲ貴フノ念ニ淺深アリ来世ノ禍福ヲ想フ  
ノ心ニ厚薄アルニ准シテ刑罰ノ效能ニモ亦淺  
深厚薄ノ差アリ

第三過剩ノ罰トハ刑罰ヲ施サスト雖モ説諭表  
率、勸導、賞譽、若クハ猶豫ヲ與フル等寛大ノ措置  
ヲ以テ同一ノ目的ヲ達シ得キモノニ向テ刑  
罰ヲ施コスヲ云フ例ヘハ人アリ有害ノ意見ヲ  
シムコト

世上ニ流布ス法官ハ直チニ此人ヲ捕ヘ刑ニ處  
シテ可ナランカ否ナ此人ハ有害ノ意見ヲ流布  
スルニ因テ自家ノ利益ヲ得ント欲セハ他ニ千  
人モ其意見ヲ駁撃スルヲ以テ各自ノ利益ト認  
ムル者アル可シ

第四費大ノ刑罰トハ刑罰ヨリ生スル所ノ害ハ  
罰犯ヨリ生スル所ノ害ニ比スルニ更ニ大ヲ加  
フル者ナルキハ則チ立法家カ防遏セント欲ス  
ル害ヨリハ却テ多クノ害ヲ萌生スルノ理ナリ  
是即チ巨害ヲ資糧トシテ細害ヲ避クルノ途ヲ

購得スルト一般ナリ罪犯ヨリ生スル害ト刑罰ヨリ生スル害ノ科目ヲ比較シテ其害ノ大小ヲ計度ス可シ凡ソ刑罰ヨリ生スル害ハ第一勢ヲ以テ人ニ迫ルノ害是ハ其禁制ノ事物ヨリ生スヘキ快樂ヲ奪將シ依テ多少ノ苦困ヲ生スル者ナリ

第二刑罰ノ苦是レ刑ヲ受クル者ハ則チ苦ヲ受クルナリ

第三畏懼ノ害是ハ法ヲ犯シ律ヲ壞リタル者ハ恆子ニ其發覺センコトヲ畏懼スル者ナリ

第四誤刑ノ害是ハ諸種ノ刑律上ニ於テ之レアルコトヲ免カレサル普通ノ害ニシテ就中通漫ナル法律若クハ想像ノ罪犯等ニ屬スル害ナリ殊ニ嫌疑ノ心中チニ熱スルハ疑心或ハ皮相(實地ニ探究セサルヲ云)ヲ以テ人ニ加フルニ刑辟ヲ以テスルコトアリ

第五波及ノ害是ハ刑名ヲ宣告セラレタル人ノ親戚朋友ノ憂悶ヲ云フ

右五件ノ害ハ則チ之ヲ以テ大害ヲ防過セン為メノ費用ナリ罰法ヲ設ルニ當テハ豈深ク之ヲ

省察セズレテ可ナランヤ  
 明黨ノ論協和セサルヨリシテ萌生スル所ノ罪  
 犯ニ於テ赦典ヲ行フアル所以ハ前ノ理由ニ  
 基ク如此罪犯ニ於テハ法律ニ乖戾セル人衆多  
 ニシテ時トシテハ國民全數ノ半ハニ及ブ  
 リ又半數ニ過クルトアリ斯時ニ當テ悉ク之ヲ  
 罰センカ或ハ選抜シテ之ニノミ罰ヲ加ヘンカ  
 孰レヲ以テスルモ其刑罰ノ害ハ之ヲ罪犯ノ害  
 ニ比スレハ更ニ大ナリトス若シ其本犯タル者  
 ニシテ國民ノ觀望ヲ繫ク人トセンカ果シテ然

ラハ若シ之ヲ刑スルハ民望ニ背キ不平心ヲ  
 生スマタ其本犯カ暗ニ外國ノ聲援ヲ假リ之カ  
 保護ヲ被ル者トセンカ若シ之ヲ罰スルハ外  
 國ノ歡心ヲ失スマタ彼人ハ國ノ為メニ有益ナ  
 ル事業ヲ起スノカアル者トセンカ之ヲ誅スル  
 ハ其益ヲ失フ故ニ如此際會ニ於テ赦典也者  
 知慮アルノ措置ニシテ刑戮ヲ施スハ則チ國ノ  
 為メニ巨大ナル費アルトテ免カレサル者ナリ

第二章

罪犯ト刑罰ノ比較



ホレレオノ詩ニ曰ク我輩ヲシテ罪犯ニ加フル  
 ニ公平ナル刑罰ヲ以テスルノ法律ヲ有セシメ  
 ヲ擗杖ヲ以テ捷ウテハ足ル所ノ罪人ニ殘刺ナ  
 ル笞杖ヲ加ルカ如キ過重ノ刑アラシムル勿レ  
 モンテスキウハ嘗テ罪犯ト刑罪トノ間ニ一定  
 ノ比較アルヲ要スルニ著目セリ

ベツカリヤモ亦此事ノ緊切ナルヲ主張セリ  
 按スルニ「クオニトス、フラキニス、ホレシオハ紀  
 元前六十五年以太利ノウエニユレニ生ル  
 ヲ以テ稱セラレタル人ナリ最モ  
 其諷刺ニ巧ミナルヲ以テ名アリ  
 百八十九年佛蘭西ノブレドニ生ル萬法精理

ハ蓋シ氏カ晩  
 年ノ著ニ係ル  
 セサール、ベツカリヤハ千七百三十五年以太利  
 ノミランニ生ル其著罪犯及ヒ刑罰論アリ  
 然リト雖氏彼輩ハ唯罪犯ト刑罰ヲ比較スル事  
 ノ緊要ナルヲ唱ヘシノミニシテ未タ之ヲ説  
 明シテ其々ヲ以テ適度ノ比較ヲ為スト云フニ  
 論及セス今我此闕ヲ補ヒ試ミニ無形數術ノ重  
 要ナル算則ヲ立定セント欲ス  
 第一則罰ヲ以テ犯者ニ與フルノ害ハ必ス犯者  
 カ罪惡ニ由テ得ル所ノ利益ニ比スレハ多カラ  
 ンヲ要ス

アングロサクソン<sup>英國古ノ律ニ農夫ヲ殺ス者</sup>ハ罰金二百<sup>凡ソ我五十</sup>シルリング<sup>國ニ當ル</sup> 貴族ヲ殺ス者ハ之ニ六倍シ國王ハ三十六倍スルノ條アリ以テ人ノ性命ノ價格ヲ定ム其法タル金額ニ比例アリト雖其情法ノ比例ノ不充分ナルモノタルヲ一目瞭然ナリ罪ヲ犯スニ由テ得ル所ノ利際涯無キ者ヲ制スルニ限界アルノ刑罰ヲ以テスル者ハ此例ト一般ノ過失アル者ナリ或有名ナル學士ノ説ニ刑罰ハ罪惡ヲ干犯スルノ路ニ誘導スル事情ノ多寡ニ准メ増減ス可シ

誘導スル事情ノ多キニ由テ罪ヲ犯セルハ實罪少シ誘導多キ者ハ犯者ノ惡意アル證少ナキ者ナリト斯説或ハ然ラン假令然ルモ上ニ掲クル所ノ法則ニ於テ妨クル所ナシ何トナレハ罪犯ヲ豫防スルニハ之ヲ制止スル所以ノ者ヲシテ之ヲ誘導スル所以ノ者ヨリ其力強カラシムルヲ要ス不充分ナル刑罰ハ過嚴ノ刑罰ニ比スレハ其害多シ何トナレハ不充分ナル刑罰ハ之レニ由テ得ル所無クシテ而シテ徒ニ害ヲ與フル者ナレハナリ其故ハ犯者カ其惡ヲ再ヒセサル

ヲ保チ難キヲ以テ社會ニ益無ク犯者ハ刑ヲ被  
ムルヲ以テ刑ノ害ヲ受ク之ヲ外科醫カ人ノ疼  
痛劇タシキヲ憐ミ治術ヲ施スコトヲ中止スルニ  
譬フ其病者ノ身ニ加フルニ無益ナル截斷ノ苦  
痛ヲ以テシ而シテ其治ヲ全フセサルハ豈仁ノ  
術ト稱シテ可ナランヤ今モ亦然リ  
第二則必罰ヲ期スル能ハサル者ハ之ニ准シテ  
其罰ヲ重クスルヲ要ス夫レ人ハ萬一ニ刑罰ヲ  
免カル、ノ僥倖ヲ期スルニ非レハ敢テ罪ヲ犯  
サル者ナリ若刑罰ハ唯犯者カ罪惡ヲ犯カ

セシニ由テ得タル所ノ利益ヲ奪還スルノミ  
ナリ凡其刑罰ハ必ス免カル、コト能ハサル者  
ナランニハ敢テ罪ヲ犯ス者ハ無カル可シ何ト  
ナレハ如何ナル愚人ト雖凡必ス罪人ト看做サ  
ル、耻辱ヲ顧ミスレテ罪ヲ犯ス者ハアル可カ  
ラサレハナリ凡ヘテ何等ノ罪ヲ犯ス凡犯罪者  
ハ發露スル一隱匿シ遂クルトノ機運ヲ豫算メ  
事ヲ為ス者ナリ故ニ刑罰ヲ脱スルノ道多キ者  
ニハ權衡シテ平準ヲ取ランカ為メニ其罰ヲ重  
クスルヲ緊要トス

此ニ依テ之ヲ觀レハ罰ヲ加フルヲ必然ヲ期ス  
 可キ者ニハ其罰ノ重キヲ要セス是法律ノ簡易  
 ナルト裁判法ノ良好ナルトニ由テ生ス可キ利  
 益ナリ  
 マタ罰ハ必ス罪ヲ犯セシ時日ニ接近シテ施ス  
 ヲ要スルモ同一理ナリ然ル所以ハ時日ヲ隔ツ  
 レハ人ノ精神ニ感染ノ力自ラ薄ク年月遷移ス  
 レハ遁逃ノ期會モ亦多キカ故ニ多少罰ヲ必ス  
 可カラサルノ狀ヲ為ス  
 第三則二罪共出スヘキ者ハ重キ罪ノ罰ヲ重シ

テ小罪ノミニ止マラシムニ罪共出トハ人アリ  
 二罪共ニ犯スノカト意志ト有スルヲ云フ剪  
 徑賊ハ盜ノミニ止ル者アリ先ツ人ヲ殺シテ後  
 チニ盜ヲ為ス者アリ如此者ハ人ヲ殺スノ條ヲ  
 以テ重刑ヲ加ヘ盜殺二罪中其重キモノヲ警制  
 ス  
 若シ犯罪ノ各部分ヲ罰スルカ為メニ之ニ適當  
 シタル罰ノ科目ヲ設クルヲ得ハ此規則ハ充分  
 ニ行ハル可シ十金ヲ盜ニタル者ヲ罰スルニ二  
 十金ヲ偷ニタル罰ト同クスレハ同一ハ盜ム可

キ機會アルハニ於テ多キヲ棄テ、寡キヲ取ル者アルヤ痴呆者ニ非レハ之ヲ為ス可カラス不  
同ノ罪ヲ罰スルニ同等ノ刑ヲ以テスル者ハ重  
罪ヲ犯スノ道ニ誘フノ狀アリ  
第四則罪犯愈大ナル者ハ或ハ之ヲ制止スルノ  
効アルヤモ未タ知ル可カラサルヲ以テ試ミニ  
愈々嚴酷ナル刑罰ヲ施スモ可ナリ  
凡ノ罰也者必ス期ス可カラサルノ利益ヲ得ン  
カタメニ必ス期ス可キノ費用ヲ為ス者ナリト  
云フヲ遺失ス可カラス小罪ヲ罰スルニ重刑ヲ

以テスルハ少許ノ害ヲ免カレント欲スルカ為  
メノ故ニ過大ノ費用ヲ為スモノナリ  
英國ノ法ニ贖金ヲ發行セル婦女ヲ罰スルニ焚  
刑ヲ以テセシハ全ク刑罰ト罪犯トヲ比較スル  
ノ規則ニ乘キタル者ナリ若シ焚殺ヲ以テ刑罰  
中ニ加フルヲアルモ放火シテ人ヲ燒キ殺シタ  
ル者ヲ罰スルノ外ニ用ユ可カラス  
第五則種々同様ノ罪ヲ犯ス者ヲ罰スルニ悉ク  
同等ノ罰ヲ以テス可カラス其人ノ感激シ易キ  
者ト否ラサル者トニ就テ事情ヲ斟酌ス可キヲ

要トス

同稱ノ罰ト雖其其實同等ノ罰ナラサルアリ男  
 女老幼貧富等ニ依テ假令犯ス所ノ罪ハ同一ナ  
 リト雖其罰ヲ加フルニ當テ自ラ増損スル所  
 アル可シ例ヘハ人身ヲ毀傷シタル罪犯ヲ刑ス  
 ルニ罰金ヲ以テス其金額恆子ニ同様ナルハ  
 富者ハ之カ為ニ痛痒ヲ感セス貧者ハ格段ナル  
 困難ヲ覺ユ又地位高ク名望盛ナル人ニ於テハ  
 耻辱ト為ス可キ罰モ下等ノ犯者ニハ毫モ耻辱  
 トナラサル者アリ禁錮ノ刑ヲ被ムルハ一ナリ

氏營業ニ奔走スル者ハ之カ為メニ破産喪家ノ  
 歎ヲ為シ老人病者ハ生命ヲ失フニ至リ婦人女  
 子ハ終身ノ瑕瑾トナル可シト雖其マク毫モ之  
 カ為メニ困難セサル者モアラシ

上来陳説スル所如此カリト雖其罪犯ト刑罰ト  
 ノ比例ハ算珠ヲ以テ計ルカ如ク瑣末ニ汲ルカ  
 為メニ法律益精密ヲ加ヘ繁細錯綜シテ解會シ  
 易スカラサルニ至ルヲ不可トス簡短平易ヲ以  
 テ最良ノ方法ト為ス可シ苟モ刑罰ヲシテ人ノ  
 腦裡ニ感染シ易スカラシメ以テ人々ヲシテ罪

犯ノ源流タル惡習ヲ忌避スルノ念ヲ起サシムル片ハ精密ナル比例ノ算計ヲ省キテ可ナリ

第三章

刑罰ヲ免カル、ヲ得ヘキ年限

罰ヲ加フルトハ犯罪以後若干ノ年限ヲ定メ其外ニ出ル者ハ之ヲ赦ス可キカ若シ犯罪者カ僥倖ニシテ若干年間法網ヲ脱スルヲ得ハ遂ニ之ヲ罰セサル可キカ如此際會ニ於テ法網ハ罪犯ヲ漏シテ可ナリトスルヤトノ問題ハ未タ論決ニ至ラサル者ナリ如此赦免ヲ得可キ罪犯及ヒ

其年數ノ長短ニ就テハ理ニ基ヒテ一定ノ規則ヲ設クルト易カラサル者ナリ

輕忽等閑等ノ如ク惡意無クシテ全ク過失ヨリ生セル罪犯ニハ年數ヲ限リテ赦免ヲ與フルモ安全ナリ此過失ハ則チ其人ヲシテ自ラ猛省セシムルノ警戒タルヲ以テ此人ハ再後ニ於テ危懼スヘキト無キ人トナル如此人ノ為メニ赦免ヲ與フルハ良法ニシテ又何人ノ害ヒナル可カラス  
年限ヲ定メテ罪犯ヲ赦ストハ其未タ果シ遂ケ

ナル罪惡、機會ヲ誤リタル罪犯等ニ及ホスモ亦  
 可ナリ何トナレハ犯者ハ其年限中若干ノ罰ヲ  
 被リタルト同キヲ以テナリ然ル所以ハ其年限  
 中已レカ罪惡ノ發露センコトヲ畏懼シテ常ニ其  
 心ニ安ンセサルヲ以テ罰ノ効カヲ感スル者ト  
 為ス可シ加之此犯者ハ再ヒ同種ノ罪ヲ犯サス  
 其惡念ヲ矯革シテ社會ノ為メニ一個有用ノ人  
 ト化シタルナリ彼人ハ法律カ調和シタル苦藥  
 ヲ嘗メスシテ既ニ道德上ノ健康ニ復セシ人ナ  
 リ

然リト雖ニ騙詐ヲ巧ニシテ大金ヲ攫取シタ  
 ル者數婦ヲ娶リ若クハ多夫ニ嫁シタル者強盜  
 ヲ行ヒシ者等ノ如キ重罪ニ係ル者ハ假令犯罪  
 ノ時ヨリ多年ヲ隔テ、發覺スルニ之ヲ赦ス  
 可カラス年月ノ長短ヲ以テ其犯者ヲシテ奸惡  
 ヲ無辜ノ人ノ上ニ恣ニスルヲ得セシムルコト勿  
 レ法律ハ此徒ニ對シテ決シテ和ヲ講スルコトヲ  
 肯ンセス報復ノ利劍ヲ以テ恆子ニ其頭上ニ閃  
 カス可シ奸徒ノ破リタル法律ヲ以テ却テ奸徒  
 ヲ保護シ彼レカ兇惡ヲ逞フシテ得タル所ノ實



策ヲ安隱ニ享有スルヲ觀ハ他ノ惡人ハ之ヲ觀  
 テ其心ヲ慰メ有德者ハ之ヲ觀テ其心ヲ痛マシ  
 ハ是公道ヲ汚瀆シ名教ヲ傷害スル者ナリ  
 年月ヲ隔ツルニ依テ犯者ヲ赦スノ愚法タルヲ  
 知ラント欲セハ宜ク下ノ如キ明文ヲ掲ケタ  
 ル法律アリト想像ス可シ曰ク  
 凡ソ人ヲ殺ス者盜ヲ行フ者人ノ財ヲ騙取スル  
 者二十年間法網ヲ免カレ得テ捕縛ニ就ク一無  
 クンハ其騙詐巧黠ノ賞トシテ彼等カ身ハ將來  
 安全ノ保護ヲ被ル可ク彼等カ犯罪ニ由テ得々

ル所ノ者ハ而今而後彼等カ真ノ所有物タル可  
 シ

第四章

過誤ノ罪若クハ不當ノ罰

罰ハ其功カヲ感セシメントスル人ニ加フヘシ  
 何某ヲシテ其効カヲ感セシメント欲セハ須ク  
 之ヲ何某ニ加フ可シ若シ某甲ニ感セシメント  
 スルノ罰ヲ以テ却テ某甲ヲ除キテ之ヲ某乙若  
 クハ丙ニ加フル之ヲ不當ノ罰ト云フ  
 然リト雖モ何某カ親愛スル者ヲ罰スレハ則チ

何某ノ為ニモ亦罰ナリ然ル所以ハ彼カ愛重ス  
 ル人ノ苦ハ彼モ亦之ヲ交感スレハナリ之ニ依  
 テ彼カ親愛シ交感スルノ心ヲ用キテ其所行ヲ  
 控制スルヲ得ルナリ此論ハ真ナリト雖モ其賊  
 否果シテ如何又利論ノ主義ニ合ナフヤ否ヤ  
 交感ノ罰ハ直チニ犯者ニ加フルノ罰ト其効力  
 相均シキヤ否ヤヲ問フ者ハ他人ヲ愛スルノ心  
 ハ自己ヲ愛スルノ心ノ如ク深且切ナリヤ如何  
 ト問フト同シキナリ  
 自愛ノ心ヲシテ他ヲ愛スルノ心ヨリ深且切ナ

ラシメハ交感ノ罰ハ人性ニ於テ直チニ受クル  
 一ヲ得可キ痛楚渾テ盡キ果テタル後ニ非レハ  
 之ヲ施ス可カラス如何ニ嚴刑酷罰ナリト夫ノ  
 罪惡ノ為メニ婦ヲ刑シ父ノ為メニ子ヲ罰スル  
 ノ嚴酷ナルニ比スレハ尚才寛大ナリト謂ハサ  
 ルヲ得ス

刑罰ノ當ヲ得サル片ハ左ノ四個ノ錯誤ヲ生ス  
 第一交感ノ罰ハ之ヲ被ルヘキ人ヲ得難キノ際  
 以シトセス然ラハ則チ完全ナル罰法ト謂フヘ  
 カラス例ヘハ何某ヲ罰センカ為メニ其親愛ス

ル者ヲ捕拿セントスレハ之ヲ其親族中ニ就テ  
 求ムルノ外ナシ即チ其父母若クハ其妻子ヲ捕  
 ルニ在リ夫レ古ヨリ暴君酷吏ノ為ス所ト雖モ  
 亦如此ナルニ外ナラサルナリ然ルニ世間父モ  
 無ク母モ無ク妻子モ無キ者鮮シトセス然ラハ  
 則チ如此榮獨ノ人ハ直チニ犯者ヲ罰セサルヲ  
 得ス其然ルモ此ニ至テ用ユル所ノ直チニ施  
 ス刑罰ハ他ノ際會ニ於テ用ユルモ必ス同一ノ  
 効ヲ奏ス可キカ故ニ至竟當初ヨリ交感ノ罰ヲ  
 施サルノ勝ルト為スニハ若カス

第二交感ノ心アラント想像スルモ犯者ハ却テ  
 其心情アラサルトアリ何其ハ其妻子ヲ顧戀セ  
 ス或ハ之ヲ憎惡スル者ナルモ其妻子ノ痛楚  
 ヲ目撃スルモ敢テ頓着スルト無ク交感ノ心ヲ  
 起サ、ル可シ然ラハ則チ此刑罰ハ全ク何其ヲ  
 罰スルノ効カヲ見サル者ナリ

第三如此罰法ヲ最モ懼レ且ツ惡ム可キ所以ハ  
 其害ノ及ス所ノ廣袤畔岸無キニ在リ人ノ親戚  
 眷屬ノ關係ヲ看ヨ人ノ子孫ノ數ヲ算セヨ交感  
 ノ罰ハ一ヨリニ及ホシ其蔓延スル恰モ温疫

ノ如ク連累ノ人員ニ限リアラサルヘシ間接ノ  
罰ヲシテ直接ノ罰ト同量ナラシメント欲セハ  
十倍百倍乃至千倍モ間接ノ苦惱ヲ與ヘサル  
ヲ得ス

第四如此自然ノ方向ヨリ屈曲シタル刑罰ハマ  
タ世人ノ望ミニモ背戾スル者ナリト知ル可シ  
罪犯者カ罰ヲ被リ即チ其身ヲ以テ公道ノ逋債  
ヲ償フタルキハ世人カ復讐ノ念全ク散レ更ニ  
他ニ求ム可キ所無シ然ルニ其罰ヲ無辜ノ親屬  
ニ及ホスルハ世人ハ之カ為メニ憐憫ノ心ヲ攪

起シ法律ヲ目シテ不公平トシ法官ヲ指シテ不  
仁トシ罪犯者ニ左袒スル者日ニ多キヲ加ヘ政  
府ヲ信シ法律ヲ畏ルノ心ハ日ニ薄弱トナル  
故ニ如此罰法ニ由テ得ル所ハ何ソヤ識者ニ向  
テハ愚法ノ名ヲ得公衆ニ對シテハ暴酷ノ怨嗟  
ヲ買フノ外更ニ所得アルヲ無レ

家眷親族ノ連合ハ斷ツ可カラサル者ト謂フ可  
キホトニテ太夕纏絡セル者ナルカ故ニ其中ノ  
罪者ト無罪者ノ維繫ヲ分ツトハ太夕為シ難キ  
者ナリ一犯者ヲ罰スルカ為メニ法律ヲ以テ害

其一人ニ加ヘントスルキハ其害ハ輒チ疆域ヲ  
 踰ヘテ愛情、聲名、利益ヲ以テ此人ト關係アル者  
 ノ身上ニ波及スルニ至ル凡ソ一人罰ヲ被ムレ  
 ハ一家ノ歎聲悲淚トナル者ナリ然リト雖此  
 害ハ刑罰ノ屬性ニシテ智仁兼備ノ立法家ト雖  
 氏全ク防止シ難ハサル者ナルカ故ニ之ヲ以テ  
 立法家ヲ諉ルヲ得ス又不當ノ刑罰トスルヲ得  
 ス父カ罰ヲ被ムレハ子ノ不幸ナルハ自然ノ數  
 ナリ然リト雖氏父ハ誅ニ伏セシ後チ其財産ヲ  
 官ニ沒取シテ無辜ノ子ヲシテ之ヲ羨襲スルヲ

得サラシムル等ノヲアレハ是則チ立法家ノ  
 意ヲ以テ造成セル事ニシテ自然ノ方向ヲ故意  
 ニ屈曲シタル罰ナリ  
 上ニ言フ所ヲ考察スレハ立法家ノ宜ク注意ス  
 可キ二個ノ義務アリ  
 其一ハ初メ罰ヲ與フルキハ慎テ不當ナルヲ  
 避ク可シ大奸巨盜ノ子ト雖氏無辜ナル者ハ最  
 モ貴重ス可キ國人同様ニ法律ノ保護ヲ與フ可  
 シ  
 其二ハ直チニ罪犯者ヲ罰スルカ為メニ自然無

辜者ニ苦楚ヲ波及スルヲハ可及的之ヲ以ナフ  
セシトニ注意ス可シ例ヘハ反逆人ヲ終身禁錮  
ノ刑ニ處シ若クハ誅戮セハ其之ヲ罰スルニ就  
テ遺算無シ若シ之ニ附加スルニ財產ヲ沒收シ  
或ハ其妻子カ財產ヲ所有スルヲ禁スル如キ  
ハ殘忍ニシテ忌避ス可キ所為ナリ家長ヲ失フ  
ノ不幸ニ罹レル家族ノ權利ヲハ故ラニ愛護セ  
サル可ラサルヲナラスヤ如此不幸者ヨリ褫奪  
シ得タル官庫ノ貨財ハ病毒ヲ含有スル食餌ト  
均シト謂フモ可ナリ

犯罪者ヲシテ間接ニ懊惱セシムルヲ目的トシ  
立法家カ無辜ヲ苦シメ不當ノ罰ヲ與フルトハ  
最モ珍シカラサルヲニテ唯其標目ノミヲ掲ク  
レハ足ル者ナリ  
第一沒收法是殆ント全歐羅巴洲ニ於テ現存ス  
ル所ノ法ニシテ未開ノ時ノ餘風ナリ此法ハ多  
クノ罪犯ニ施シ行フト雖氏就中國事犯ヲ罰ス  
ルニ用ユ

國事犯ヲ罪スルニ沒收ノ法ヲ用ユル者ハ裁  
判上ノ罰法トハ看做シ難シ然ル所以ハ内亂

ノ時ニ方ツテ彼此各自ニ我ハ直ニシテ彼ハ曲ナリ己ハ正ニシテ汝チハ邪ナリト思惟シテ相鬪戦スル者ナルカ故ニ其實犯罪トス可キ者無シ若夫没收ハ全ク敵人ヲ待ツノ法ニシテ我之ヲ掠奪セサレハ彼ノ資ヲ為サシヲ恐レテ彼ノ財産ヲ没收スルナリ然ルニ戦時ニ方テ己ムヲ得スレテ用ユル所ノ法ハ禍亂全ク戡定セシ後チ昇平無事ノ日ニ至ラハ直チニ之ヲ用ユルヲ休廢ス可シ假令事故アリテ之ヲ用ユルモ可及的ハ寛大ノ措置アラ

シトテ欲ス然ルニ没收ノ法ノ如キハ戦闘ノ危険既ニ鎮靜ニ歸シタル後チニ非レハ行ヒ得難キトナルカ故ニ甚タ厭惡ス可キ法ナリ加之亂ヲ平ケ和ヲ致サンニハ宜ク怨嗟ヲ去リ讎視心ヲ除クヲ急務トス可キトナルニ今ノ法ハ却テ其怨讎ヲ留存スル者ニ似タリ豈之ヲ速慮ニ乏シキ拙愚ノ法ト謂ハサルヲ得ンヤ

第二血統ノ汚穢是ハ立法家カ没收法ヲ施行スル口實トセンガ為メニ造設セル殘刺ノ法ナリ

無辜ノ子ハ其罪人タル父ノ血脈ヲ兼ケタル者ナルヲ以テ其權利ヲ汚穢シ消滅セリ其無辜ノ祖父ノ遺業ヲ襲フヲ能ハスト云法ナリ血統ノ汚穢トハ狂者ノ言ニ類スル辭柄ナリ我ヲ以テ視レハ如此ナル無根ノ誣言ヲ信用スル無耻ノ人コソ真ニ其精神ト意志ノ汚穢シタル者ナリト謂フモ亦不可無カラシ

第三特權ヲ剥奪スル法トハ都邑ノ結社一都府一會社ト為シ全國ニ對シテ一種獨立ノ狀ヲ為スト恰モ一商會カ他ニ對シテハ一人ノ作業ト看做スカ如ク其社ノ一部分ノ人ニ不品行アレ

ハ全社ノ特權ヲ褫奪セララル、者ヲ云フ是ハ英國ニ於テハ龍動府ノミ別法アリテ此罰ヲ被ムルヲ免カル、ト雖氏他ハ必ス此罰ヲ受ク若シ此特權ヲ與フルヲ果シテ國ノ為ニ有益ナル者トセハ何故ニ他ノ都邑ヲシテ此罰ヲ免カル、トヲ以テ龍動府ト同一ナラシメサルヤ甚タ謂レ無キナリ

第四私子ノ不幸是ハ父ノ財産ヲ襲フノ權無キヲ以テ不幸ト云ニハ非ス尋常ノ子ト雖氏冢子ニ非レハ父ノ産ヲ兼ケ繼クヲ能ハサルハ私生



ノ子ト異ナルナシ若シ其生レタル年月ノ曖昧  
ナル者カ父ノ財産ヲ羨襲センコトヲ請求スルヲ  
得タランニハ無限ノ紛擾ヲ生スルコトアル可シ  
茲ニ私子ノ不幸ト云ハ是等ノコトヲ指スニ非ス  
歐洲各國ニ於テ私子タル者ハ人民タル權利ヲ  
有スルコト能ハサル者數種アリ是ソ真ノ不幸ニ  
シテ父母ノ遠慮ナキ過失ノ為メニ無辜ノ子ヲ  
シテ不幸ノ罰ヲ被ラシムル者ト謂フヘシ  
第五重科ヲ犯シタル人ノ親族ノ醜名是ハ世人  
カ犯罪者ノ親屬ヲ忌避スルコトノ當否ハ措テ論

セス法律カ犯罪者ノ親族ト犯罪者トヲ同視シテ措  
置スルコト多キカ故ニ世人モ亦之ヲ忌避スルニ  
至レルナリ但シ如此不公平ナルコトハ漸々ニ減  
殺ス可シ

第五章

素行ヲ備ムル為メノ保證人ヲ設ク  
ルコト

素行ヲ正シテスルカ為メニ保證人ヲ立ルトハ  
或人ハ法ニ背キタル所行アル可キカノ疑ヒア  
ルコトハ其人ヲシテ保證人ヲ出サシメ前疑ノ如

ク果シテ不法ノ所行アルハ保證人ヲ罰スルノ約束ヲ云フ  
 初メ此法ヲ見タルハ此法ハ有罪者ニ代フルニ非罪者ヲ罰スル者ナルカ故ニ上ニ陳説スル所ト矛盾スルカ如ク見ユルナリ故ニ其害ニ勝レルホトノ利益アルニ非レハ之ヲ用ユル哉ハス其利益トハ則チ此法ハ罪犯ヲ豫防スルノ効能アリ又一個ニ責任ヲ與フルヲ以テ一般ノ安全ヲ保護スルニ在リ  
 此法ノ貴ハ可キ要點ハ疑ヲ被リタル人ノ所行

ヲ控制スルノ多キニ在リ疑ヲ被リタル人ハ其親族或ハ朋友カ其自由ト名譽ヲ保存スルカ為メニ財産ト安寧トヲ賭シ己レカ行狀ノ證人トナリテ其懇誠ヲ表シ平生己レヲ愛セルヲ徴ス尅實シテ云ハハ自己ノ為メニ人質ト為リタルヲ見ハ深ク其恩遇ニ感スル所アル可シ然レハ其懇切ヲ無ミノ罰ヲ其人ニ被ムラレモンカ己レハ自ラ知遇ノ恩ヲ知ラサル人トナリ果ツ可キカ人ノ恩ヲ忘失シ懇惻ノ情ニ背キ豈他日ニ噬臍ノ悔無カル可キカ等ノヲヲ想起ス可

シ若シ彼レハ無慮無定心ノ者ニシテ此等ノ事  
 ニ思及セス自カラ其心ヲ制馭スル能ハサル者  
 トスルモ保證ノ法ハ徒設ニ屬セス其行狀ノ責  
 ニ任スル所ノ保證人ハ彼レカ素行ノ良否ニ就  
 テハ自家ノ身上ニ干係スルカ故ニ法律ニ因テ  
 彼レカ後見人ト為サレタル者ナレハ假令本人  
 ニハ等閑ノ所行アリモ保證人ノ注意ヲ以テ之  
 ヲ償ヒ恒ネニ其行狀ヲ監督ス可シ此他保證人  
 ハ彼レニ恩アリ且ツ何等ノ時ニテモ保證ヲ解  
 キ疑ヲ被リタル人ヲシテ其身ノ命運ニ一任セ

シムルノ權アルヲ以テ保證人ノ言フ所ハ彼レ  
 モ亦必ス聽從セサルヲ得サルノ理由アリ此  
 法ノ罪犯ヲ豫防スルニ効アルヲハ則チ此等ノ  
 事ニ由テ存スルナリ

保證ノ法ニ由テ見レハ疑ヲ被リタル人ハ太々  
 不良ノ性質アル者ニアラス且ツ其出處ノ確實  
 ナルヲモ證明セラル、ノ氣味アルカ故ニ大  
 ニ世人ノ危懼心ヲ除却フ恰モ保險ノ約束ノ如  
 キ者ナリ例ヘハ人アリ我ニ害ヲ與ヘントスル  
 ノ色アルヲ以テ我ハ之ヲ禁錮セシトス時ニ其

人ノ親友アリテ只管禁錮ノ如キ殘酷ナル所為  
 ノ無益ナルヲ論シ且ツ我ニ告ケテ曰ク余ハ汝  
 チニ比スレハ猶ホ善ク彼レカ人ト為リヲ知ル  
 汝ハ何等ノ事ニ就テモ彼レヲ恐ル、ト勿レ若  
 シ余カ言ニシテ誤謬アラシメハ余ハ汝ニ向テ  
 其過チヲ償フ可シ是余カ彼レヲ信スルノ證ニ  
 シテ復タ汝ヲ欺カサルノ證ナリト云フト相殊  
 ナルト無シ  
 上ニ陳フル所ハ則チ保證人ヲ設クルノ利益ヲ  
 言フナリ此法必シモ害ヲ生セサルニ非スト雖

氏其害ハ之ヨリ生スル所ノ利益ト比較シテ輕  
 重大小果シテ如何ヲ見ル可シ就中若シ此法無  
 ケレハ則チ疑ヲ被リタル人ヲハ嚴酷ナル措置  
 ヲ以テ監督セサルヲ得ス保證人トナリタル人  
 ニ害ヲ生スル氏其害ハ豫テ自ラ兼諾セシ後チ  
 ニ於テ被ムル者ナルカ故ニ危險モ無ク危懼心  
 ヲモ生セス若シ前後ノ思慮ナク目ヲ掩フテ遠  
 無キヲ保證人トナリタル者ハ害ヲ受クルトア  
 リ氏其人ノミニ止リテ他ニ及ホス者ニ非ス他  
 ノ人ハ各自ニ之ト同様ナル害ヲ被ムルニ至ラ

シ乎ト危懼スル念ヲ生セス然リ而シテ概子保  
 證人トナル人ハ彼レハ十中八九篤實ナル者ナ  
 リト認定スル所アルカ故ニ之カ保證人トナル  
 ナリ是ハ保證セラル、人ノ性質ヲモ地位ヲモ  
 他ノ人ニ比スレハ熟知スルニヨル且ツ保證人  
 トナルトノ危キヲモ識ク知ルカ故ニ多分篤實  
 ナリト思フ者ニ非レハ保證セサルモノナリ  
 如何ノ事情アル際會ニ於テ此法ヲ施用ス可キ  
 ヤヲ考察スルニ

第一確執名譽ノ争就中決闘ヨリ生ス可キ罪犯

ヲ豫防スルニ要用ナリ通例此種類ノ犯罪者ハ  
 耻辱ヲ顧ル、心無キ者ト認ム可カラス何トナ  
 レハ其他人ト争端ヲ發ク者ハ則チ其名譽ヲ保  
 タンカ為メナリ然ルニ名譽也者恩遇ヲ顧ミス  
 レテ人ト争フトヲ促カス所以ノ者ニ非ス況ヤ  
 自ラ利益ヲ取ランカ為メニ恩人ヲシテ罰ヲ被  
 ムラシムルトハ最モ名譽ヲ墜スノ具トナルニ  
 於テヲヤ

第二斯法ハ信任ノ義務ヲ破ルノ罪犯ヲ豫防ス  
 ルニハ極メテ適當ナリ

信任ノ義務トハ人ニ依  
 托セラレタル事ニ依テ

罪ヲ犯ス者ヲ云フ監人ニ信任委託ス可キ事項  
守盜ノ如キ是ナリ  
ハ豊富アリ聲名アリ素行ノ方正ナルヲ確認  
シ得ルノ人ニ非レハ之ヲ信委ス可カラズ保證  
ヲ取ルノ條件ハ固ヨリ其分ナレハ敢テ人ニ由  
テ趣ヲ異ニスル者ニ非ス故ニ何人ト雖モ保證  
ヲ設クルヲ以テ其心ニ不快ヲ感スル者アル可  
カラズ

第三此法ハ多數ノ人カ連盟シテ反ヲ謀ル等ノ  
如キ政事上ニ干係スル際ニ施用シテ効アル者  
ナリ如此等ノ人ハ惡意アルニ非スレテ唯其方

嚮ヲ誤ツテ黨類ニ加ハル者多キニ居ル故ニ友  
愛ノ情名ヲ愛ムノ心ハ深キ者ニシテ社會ニ叛  
クコトヲ謀ル中ニモ其黨中ニ在テハ親實ナル交  
リヲ締メ者ナリサレハ謀反セシメノ發覺スル  
アラハ最モ疑ハシキ者ヲシテ保證人ヲ出サシ  
ム可シ輕々ニ看過スル由ハ大ニ迂濶ナル措置  
ニ似タル者ナリト雖モ亦甚タ効カアル者ナリ  
反者ハ己レノ所行カ恆子ニ人ノ注目スル所ト  
ナルヲ見テ危懼心ヲ生レ且ツ上ニ言フ所ノ如  
ク名ヲ愛ム心アルカ故ニ真ニ其反心ヲ翻ス

アリ或ハ之ヲ口實トシテ黨中ノ誓約ヲ破ル  
 ヲ得ルナリ其真偽ハ暫ク措キ正道ト恩信ニ基  
 キタル口實トナルモノナリ  
 第四被告人ノ遁逃スルヲ防カンカ為メニ保  
 證人ヲ設ケシムルハ法官ノ偏愛心ヲ制止ス  
 ルノ利益アリ若シ此法無キハ不正若クハ怠  
 漫ナル法官ハ罪狀ノ未決ナルカ故ニ其禁ヲ緩  
 フスルヲ口實トシ囚人ヲシテ刑ヲ免カレシメ  
 嚴刑ヲ變シテ追放ト為スカ如キトアルニ至ル  
 遁逃スル人ハ必ス他所ニ確實ナル保證無クメ  
 往クカ故ニ追放ト同シ

囚人ノ禁ヲ緩フスルヲ許サ、ルキハ如此ノ  
 弊ヲ生スルノ虞アルト無シ  
 保證人ニ被△ラシムル罰ハ一言ニシテ足レリ  
 曰ク其罰ハ罰金ヲ課スルノ外決シテ他ノ罰ヲ  
 與フ可カラス其身體ヲ苦ムル所ノ罰ハ斷シテ  
 施ス可カラサルナリ  
 若シ保證人カ金ヲ納ル、能ハサルキハ禁錮、  
 刑ニ處セラル、トモアル可シ然リト雖モ金ヲ  
 納ル、ノ力無クシテ保證人トナリタル者ハ法  
 官ヲ欺キタル者ナリ保證人トナリシ後キニ破

産シタル者ハ其時官ニ請求シテ保證人タルヲ止ムヘキナリ然ルニ保證人破産セシ時ハ宜ク審判シテ欺詐ナリヤ將タ不幸ニ由テ然ルヤヲ辨別不可シ若シ保證人タルヲ以テノ故ニ破産スル者ナランニハ格別ノ寛典ニ處ス可シ

第六章

罰ヲ簡ム可キヲ

刑罰ヲシテ前ニ陳フル所ノ諸則ニ適應セシムルニハ左ノ如キ性質ヲ有スルヲ要トス  
第一刑罰ハ細分シ得可キヲ要ス是罪犯ノ輕重

ニ應シテ其罰ヲ増損シ得ンカ為メナリ禁錮流刑ノ如キ久常ニ施ス可キ罰ハ其性質タル能ク細分シ得ヘキカ故ニ之ヲ其罪犯ニ應シテ増減スルヲ得ルモノトス罰金モ亦如此

第二刑罰ハ平等ナルヲ要ス是同種類ノ罪犯ハ可及的同刑ニ處ス可シ其所謂同刑也者之ヲ被ムル人ノ性質ニ從テ罰ヲ被ムルノ苦ヲ同量ニ不可キヲ云トリ故ニ刑セラレ、人ノ年齢、男女、貧富、習慣、貴賤等ノ差異如何ニ注意ス可シ然ラサレハ同狀ノ刑罰モ一人ノ為ニハ酷ニ過キ一



人ノ為メニハ寛ニ過キ彼ノ為メニハ過重ノ感ヲ為シ此ノ為メニハ効力無キ者ナリ法律ヲ以テ一定セル罰金ハ被刑者ノ貧富ニ應シテ勢力ヲ異ニスルカ故ニ不平等ノ罰トス流刑モ亦然リ一人ノ為メニハ重クシテ一人ノ為ニハ輕シ第三刑罰ハ較量シ得可キヲ要ス人アリ若シニ罪ヲ犯サントスル時法律ヲ以テ彼ヲミテ自省シテ其中ノ重罪ヲ犯スヲ止ムルノ意ヲ起サシム可シ彼レヲレテ重罪ヲ犯スハ則チ重刑ニ服スルコトヲ知ラシムルハ則チ之レヲ止ムル

ノ意ヲ起ス是犯者ヲシテ刑罰ノ輕重ヲ較量スルヲ得セシムルナリ

此目的ヲ達スルニ二個ノ方法アリ第一ハ同種ノ刑罰ヲ加増スル例ハ五年ノ禁錮ニ二年ヲ加ヘテ七年ト為スカ如シ第二ハ異種ノ刑罰ヲ加増スル例ハ五年ノ禁錮ニ公羞公然耻辱ヲ與肆刑ノ如キ是ナリヲ加フルカ如シ  
 第四刑罰ハ罪犯ト類似ナルヲ要ス刑罰ノ狀罪犯ノ狀ト類似スルキハ記憶ニ銘スルヲ易ク想像ニ現ハル、一深シ例ハ人ノ一眼ヲ傷クル

者ハ彼レカ一服ヲ傷ク可シ人ノ一齒ヲ折ル者  
 ハ亦其一齒ヲ碎ク可シト云如キ所謂報復法也  
 者實ニ此條ニ言フ所ニ適當スル者トス可シ甚  
 レキ痴呆者ト雖レ之ヲ記臆スルヲ難カラス唯  
 如斯ノ法ハ實際ニ施行シ易スカラス時トシテ  
 ハ刑ノ費用過大ナルヲアリ  
 此他猶ホ罪犯ニ類似スルノ刑必ナカラス例ハ  
 ハ人カ罪ヲ犯シタル心術ヲ推究シテ其人ノ稟  
 性ヲ搜リ其罪ヲ犯カス所以ヲ取テ以テ彼レヲ  
 罰スルノ具ト為ス可シ例ハ貪心ヨリ生スル

ノ罰ハ若シ其犯者カ富ヲ有スル者ナレハ罰金  
 ヲ徴シ人ヲ侮辱スル者ハ耻辱ヲ與ヘテ之ヲ罰  
 シ怠惰ナル者ハ強迫シテ之ヲ動作セシメ若ク  
 ハ強迫メ無聊ニ苦マシム譯者曰稟性怠惰ナル者ト雖レ強迫シテ休  
 息セシムルハ其無聊ニ苦ムヲ云フ  
 第五刑罰ハ其外想ヲ嚴格ニスルヲ要ス刑ノ重  
 キ者ト雖レ之ヲ施行スルヲ輕忽ナルハ公衆  
 ニ感添スルカ少ナシ故ニ嚴ヲ刑碎ニ加ヘスレ  
 テ重ヲ其相狀ニ示スヲ刑法ノ術トス此目的ハ  
 罰ノ種類ヲ簡之又ハ之ヲ施行スルニ當テ鄭重

嚴肅ニスルヲ以テ達シ得可キ者トス  
 信刑「アウトダ、フエ、宗教信仰ノ法ト云義ニシテ  
 葡萄、牙、西班牙ニ於テ猶太人及ヒ新教ノ人  
 ヲ焚殺セハ之ヲ宗教ニ用キスニテ國法ニ用ユ  
 ル刑ノ名レハ有益ナル發明ト謂テ可ナル者ナリ抑、罪犯  
 ヲ刑ニ處スルハ法官カ民庶ニ示スカ為メニ演  
 スル所ノ悲劇ニ外ナラサルナリ其事タル真ニ  
 悲哀ス可キ者ニシテ大ニ之ヲ觀ル公衆ノ心ヲ  
 感動スル者ナリ故ニ刑場ノ威儀、施刑ノ光景等  
 ハ最モ人心ヲ感動スルヲ助クル者ナルカ故  
 ニ可及的之ヲ壯嚴ニスルヲ可トス官吏ノ衣帽

罪囚ノ服、刑場、僧徒ノ誦經等凡ヘテ皆嚴肅ニシ  
 テ惆悵ノ情、慘悽ノ態ヲ具フヘシ斬罪ノ如キ刑  
 卒ハ喪服ヲ被テ其面ヲ裏ム是其刑狀ヲ刷フ為  
 メノミナラス公衆ノ憎惡ヲ受ケサラレシメンカ  
 為メナリ若シ全ク公衆ヲ哄騙シ了スルヲ得  
 可クンハ備テ刑ニ上スモ亦可ナリ何トナ  
 レハ罪人ヲ刑場ニ登スハ全ク外觀ヲ為サンカ  
 タメニ必要トスル者ナレハナリ  
 第六刑ヲ節スルヲ要ス是刑罰ハ其目的ヲ達ス  
 ルニ充分ナルノ外ニ重キヲ加フ可カラサルヲ

云フ此限度ヲ超過スル者ハ剩多ノ害ヲ與フル者ニメ又種々ノ技悟ヲ生シ法ヲ決行スルノ妨害ヲ為ス罰金ハ刑罰中ノ節約ナル者ナリ然ル所以ハ金ヲ出ス者ノ害ハ之ヲ受クル者ノ為ニハ利トナレハナリ

第七刑罰ハ還復シ得可キヲ要ス是ハ刑罰ヲ決行セシ後チ其冤罪ナリシヲ發見スレハ之ヲ補償シ難カラサルカ為メナリ證據ハ必シモ完全ナラス外貌ハ必シモ内心ト同シカラス真偽ヲ判シ曲直ヲ斷スルニハ渾テ確的不動ノ規準

アル者ニ非ス故ニ最モ明白ナル證左アリテ且ツ止ムヲ得サルキニ抹ンハ還復シ得ヘカラサルノ刑ヲ施ス可カラス是社會ノ安全ヲ保ツニ必要ナリ罪狀ノ外貌ト證左カ無辜者ノ身上ニ集合シテ後チ其無辜ナルヲ發見スルキニ至テ矜哀ノ情ヲ生シ其速了ノ裁決ヲ悔ユト雖モ復シ何ソ及ハンヤ如此例ハ吾人ノ共ニ知ル所ナリ然ルニ人ノ心ハ惡事ニ昏迷シ易キ者ト看做メ之ヲ罰シ其罰ヲ與フル人ハ自カラ昏迷セサル者ト自信シテ人ヲ罰スルハ豈浩歎ニ付セ

サルヲ得ニヤ

刑罰ニ必要ナル性質ノ上ニ列叙セル者ノ外ニ猶ホ三條アリ之ヲ要スルニ上ニ列叙スルカ如ク必用ナルニ非スト雖氏之ヲ用弁得可キ際會ニ於テハ亦必ス遵用スルヲ要スル者タリ令其例ヲ示サン

第一刑罰ハ犯者ヲ懲戒スルヲ貴フ但レ刑罰ヲ懼ル、カ故ニ再ヒ罪ヲ犯サル、ノミナラス又其性質ヲ改良スルヲ貴ム此目的ヲ達スルニハ罪ヲ犯セル心術如何ヲ探知シ其心術ヲシテ衰

恭セシムル為ノ刑罰ヲ加フヘニ懲罰ノ獄ニ

於テハ各犯者ヲ隔離シテ其惡心ノ深淺ニ由テ

之ヲ待ソノ法ヲ異ニス可シ譯者曰余嘗テ之ヲ

ク人ノ性ハ雜居ヲ欲スル者ナリ一人獨居スレ

ハ人其性ヲ聊ニセヌ英國ニ於テ囚人ヲシテ異

室離居セシメタルニ方ソテ

發狂セシ者居多ナリト

第二害ヲ為スノカヲ殺クテ此目的ヲ達スルハ

前ノ條ニ比スレハ容易ナリ支肢ヲ斷テ若クハ

終身禁錮スル等皆其力ヲ殺クノ効力アリ然リ

ト雖氏強テ此事ヲ行ハント欲スレハ刑罰稍苛酷ニ互リ易シ世ニ死刑ノ多キ則チ是ナリ

時トシテハ犯者ノ性命ヲ斷ツヲ除クノ外ニ  
 其害ヲ為スノ力ヲ殺ク能ハサル者アリ是竊モ  
 非常ノ際ニ於ケル者トス例ヘハ内亂ノ時ニ當  
 テ其巨魁ノ名ハ以テ衆人ヲ煽動スルニ足ルカ  
 故ニ其ヲシテ死ナシムルニ非レハ其害患ヲ為  
 スノ力ヲ殺クヲ能ハス然リト雖モ如此ク罪ノ  
 有無疑ハシキ者ヲ死刑ニ處スルハ刑罰ニハ非  
 スシテ讎敵タル所以ヲ以テ殺ス者ニ屬ス可シ  
 第三被害者ニ補償ヲ與フルト是ハ刑罰ニ於テ  
 重要ナル理由アル者トス何トナレハ是一ノ行

為ヲ以テ二個ノ目的ヲ達スル者ナレハナリ即  
 チ罪犯者ヲ罰シ傍ヲ其罪犯ヨリ生スル所ノ害  
 ヲ治ス第一等ノ害ヲ除キ危懼心ヲ去ル是罰金  
 ノ法ノ特有スル所ノ功用ナリ  
 マサニ此章ノ局ヲ結ハントスルニ方リテ最モ  
 緊要ナル事項ヲ概括シテ論述ス可シ立法家ハ  
 宜ク刑罪ノ種類ヲ撰定スル時ニ於テカメテ人  
 民カ習慣ニ依テ固有セル忌嫌心ヲ激發セサル  
 者ヲ取ル可シ苟モ人民ノ心ニ於テ某種類ノ刑  
 罰ヲ忌嫌スルヲアラハ如何ニ有用ノ功力ヲ具

フル刑罰ナリ此之ヲ刑法中ニ編入ス可カラス  
 其然ル所以ハ何ソヤ如此ハ必竟害ヲ為スヲ益  
 ト比較スレハ更ニ大ナル者アレハナリ夫レ人  
 心ニ協ハサル刑法ヲ設ケ公衆ヲニテ痛苦ノ感  
 想ヲ起サシムルハ害ノ一ナリ如此キハ罰ヲ被  
 ムル者ハ有罪者ノミニ局ラス無辜ニシテ柔弱  
 ナル人モ亦其感覺ヲ苦ムルヲ以テ陰ニ有實無  
 名ノ罰ヲ被ムル害ノ二十リ加之其意望ニ戾ル  
 アルヲ以テ暴虐ノ想像ヲ為サシム其結果タル  
 豈大害ヲ萌生セサルヘケンヤ立法家カ人心ノ

如何ヲ顧慮スルヲ賤メハ人望遂ニ乖離スル  
 ニ至ラン然ラハ則チ公衆ハ其法律ヲ施行スル  
 為メニカヲ借スヲ忌ミ法律ノ輔翼タル可キ公  
 衆ヲシテ却テ其讎敵タラシメ或人ハ犯者ヲシ  
 テ罰ヲ逭カレシムルヲ助ケ或人ハ犯者ヲ告  
 訴スルヲ否ナシ或人ハ法廷ニ立テ證人トナ  
 ルヲ肯シセシテ自カラ其法律ヲ施ク為メ  
 ニカヲ盡スヲ耻ルニ至ル可シ如此一般ノ不平  
 心ハ終ニ積累スルニ從テ張大シ以テ法官ニ抵  
 抗シテ刑罰ヲ決行スルノ妨礙ヲ為スニ至ルヲ

無キヲ保シ難シ果シテ然ラハ法官ト頷頷シテ  
勝ヲ得ルヲ以テ愉快トシ犯者ハ罰ヲ逭カレテ  
獨リ利益ヲ占有スルニ至ラン  
刑罰ノ人望ニ背クコトアルハ都テ其編製ノ不良  
ナルニ由ル故ニ刑法ヲ撰定スルニ方テ我カ本  
篇ニ示ス所ノ精神ニ從フコト益緻密ナレハ亦益  
識者ノ尊敬スル所トナリ公衆ヲシテ中心悦服  
セシムルヲ得可シ如此刑罰ニ於テハ人ニナ之  
ヲ正ニシテ寛ト認ム即チ其事ノ宜キニ適合セ  
ル其罰ノ罪犯ニ類似セル罪ノ輕重ニ從テ罰ノ

輕重ヲ為ス等ニナ直チニ人心ニ感スル事ナリ  
是等人ニナ日常ノ事ニ就テ其法ノ善良ナルヲ  
知ル所ニシテ何人ニモ解會シ易キ者ナリ法律  
カ世人ノ信ヲ増シ公衆ヲシテ之ヲ遵循スルコ  
ト翼贊セシムル者此ヲ捐テ、亦他ノ方策アル  
可カラズ公衆ニシテ一回法律ヲ翼贊スルハ  
則チ犯者ニシテ刑罰ヲ免カル、ノ幸ヲ得ルコ  
ト蓋シ鮮矣



3010  
39

37234

刑法論綱卷四終

刑法論綱

卷四

千代田印刷



